

18

私の再出発

佐藤 聖子 原案
編集委員会

考えよう

目標をもって学び、困難を乗り越えて
自分を高めていくことについて、考えよう。

●あなたは、学ぶことを楽しいと感じたことはあるだろうか。

(ある場合) それは、どんなときで、どうして楽しいと感じたのだろう。

(ない場合) あなたはいつも、どのような気持ちで学んでいるのだろう。



皆さんは、中学校の「夜間学級」を知っていますか。登校は午後五時半、夕礼、学活、一時間目の授業があり、夜の給食の後に二時間目の授業。下校は午後九時半になります。義務教育を終えられなかった十五歳以上の人を受け入れており、十代から高齢者まで、幅広い年代の人が通学しています。また最近では、中学校は卒業したものの、不登校などの理由で十分に通うことのできなかった人の「学び直し」の場にもなっています。二〇一七（平成二十九）年現在、八都府県に三十一校が設置されており、日本在住の外国の人も多いことから、日本語教室が併設されている学校もあります。次の文章は、東京都荒川区立第九中学校の夜間学級に七十八歳で入学し、八十一歳で卒業した、見目律子さんの作文です。

東京都荒川区立第九中学校
夜間学級の日課表（通常時）

職員打ち合わせ	午後4:30
夕礼	午後5:30～5:35
クラス学活	午後5:35～5:40
1校時	午後5:40～6:20
給食	午後6:20～6:50
2校時	午後6:50～7:30
3校時	午後7:35～8:15
4校時	午後8:20～9:00
学活・清掃（せいそう）	午後9:00～
下校	午後9:30

私の再出発

見目 律子

二〇一〇年五月、娘が入学祝いにプレゼントしてくれた赤いかばんを持って、まるで子供みたいになくしながら、私は九中の門をくぐりました。やっと私の勉強の場ができた、これから何かが始まる、今日から私の人生が開ける、という思いでした。

私の子供時代は戦争の末期で、あまり勉強した記憶がありません。授業中も、道路の脇をくわで開墾してカボチャやトウモロコシを植えて食料を作ったり、田んぼに行つて、苗の間にいる虫を捕ったり。机に向かって勉強というよりは、働いていた時間のほうが多かった記憶があります。小学校を終えると、複雑な家の事情もあり、進学はさせてもらえませんでした。

*女学校に通う隣の子を羨ましく思いながら、家の手伝いや農作業をやり、農閑期は洋裁や和裁を習っていました。そして、戦争が終わって私の下の代から制度が変わり、新制中学がスタートしました。三年間も中学に通える人たちがすごく羨ましくて、あと数年遅く生まれたら私だって通えたのにと、悔しかったのを覚えています。年の離れた妹が高校、大学と進学していくたびに、私は小学校だけで勉強を中断させられた、私は勉強をきちんとやっていない、という気持ちになったものです。

結婚して三人の子供に恵まれました。子供たちには、私のような思いはさせまいと、がんばりました。地方公務員として学校給食の仕事に従事し、六十三歳まで働き、三人とも大学にやることで、私としては幸せだと思っていました。でも、いざ子供たちが独立してみると、今度は自分のことが気になってきました。

街で英語の看板を見ても、何が書いてあるのかわかりません。わからないまま、できないまま

で終わらせたくない。一つでも二つでも覚えたいと思いました。たった一度の人生、かけがえない人生、悔いを残したくはありませんでした。通信教育で勉強できると知り、申し込もうと出かけたが、基礎ができていない自分には無理だと諦めて、途中で引き返したこともありました。それから、なんとか勉強したいと思う心を一人胸の中で温め続けてきましたが、どうしてもいいかわからないまま、年を取るばかりです。もう時間がないと、ついに決心して役所に行き、相談しました。成人でも勉強できる場所として荒川九中を教えてもらったときは、本当にありがたかったです。

六十数年ぶりに机に向かったときは、ちょっと照れくさかったです。学校はとても温かい所でした。七十八歳の私でも学ぶ所があつてよかったと思えました。古文など、今まで知らなかった新しいことを学べるのは、本当にうれしいことです。技術の時間には、糸のこを使って箱を作りました。学校は、一人で家にはできないことをいろいろ経験させてくれます。私でも電子辞書が使えるようになりました。でも、英語や数学はなかなか覚えられなくて、あと十年早く九中に出会っていたら、もっとできるのという、歯がゆい思いもあります。

卒業証書を受け取る見目さん。



私は、健康で学べる幸せを日々感じながら片道二時間を通っています。今の学校生活ができてるのは、周りの先生方や、いつも優しく手伝ってくれるたくさんの方のおかげだと感謝しつつ、学生ならではの、いろいろな刺激をもらいながら学んでいます。

決心して行動を起こして、本当によかったと思っています。夜間学級に入学したあの日が、私の再出発の記念日です。今までできなかった、新しい世界がどんな広がっていることを実感しています。

私は七月に八十歳の大会に突入してしまいましたが、向上心をもって、まだまだ一つでも多くのことを学んでいきたいと思っています。

見目さんは、夜間学級を卒業後、高校に行くことを決意し、二〇一三（平成二十五）年に定時制高校に入学。三年後に卒業しました。見目さんの挑戦は続いています。

考えよう

●見目さんは、なぜ夜間学級に入学し、学び続けたのだろう。

つなげよう

●これからあなたは、どのように学んでいくのだろう。



電子辞書を使って勉強をする見目さん。

*女学校

「高等女学校」の略。

旧制の女子中等教育機関。